

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より開催しており、千葉県内だけで実施しており、毎年1万人を超える児童が参加しています。



このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを感じさせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想する時、子供たちはとても楽しく夢を膨らませます。このコンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントですが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。

### 夏休み前(前期)の活用のご提案

コンクールの応募締切日は応募要項のとおりです。第15回の本年は新型コロナウイルス感染防止対策中の実態を踏まえ、夏休みに入る前に課題を呼びかけ、自宅で本コンクールに取り組めるよう応募要項の体裁を改めました。

### ●コンクールのねらい

自分たちを取り巻くごみに関する環境問題や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育った千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるはずで、それが愛国心につながると良いと思っています。

### ●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、そして身の回りや実社会で起こったニュースの中にヒントがあります。

先生や保護者の皆さまにお願いいたします。例えば低学年では、使い捨ての実態や品物の買い替えを例に、アイデアや意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

その刺激が子どもたちの自由な想像力を湧き上がらせると思います。

### ●先生方の声

作品応募時にいただいた声を一部抜粋して紹介します。

ごみに関する環境問題は大きな社会問題となっています。4年生の社会科でごみ処理の仕方を学び、5年生でごみ問題を解決する方法として3Rについて学びます。学習を通じて大切なのは、一人ひとりがごみ問題を切実な問題として受け止め、今後自分たちが取り組めることを考えることであると思います。本コンクールに参加することは、児童がごみ問題や環境に目を向けるよい機会となっています。今年度応募したユニークな作品は、作品返却後に校内で掲示して他の児童にも発想を広めたいと思います。

多くの児童が楽しみながら取り組みました。一人ひとり観点は違いますが、環境について真剣に考えアイデアを出していました。環境問題やごみ問題について自発的に調べたことを教えてくれる児童もいました。作品を仕上げるにあたり社会全体のことを考えて自分たちの未来を考えたり、これからどうしていくべきか、どのような世界にしていきたいかを考えるよいきっかけになりました。

「こんなごみ箱があったら楽しそう」「こんなごみ箱があったら地球は美しくなるだろうな」「こんなごみ箱のある未来に住みたい」というような夢がたくさんつまった作品が多くみられました。こんな未来、こんな地球、こんな自然…と、今の問題をとらえ、未来を前向きに考えるのは子ども達にとってとても大切なことです。こうした機会は今の環境問題を見つめ直す良いきっかけになったと思いますし重要なことだと思います。